

第31回 兵庫県生物学会総会報告

期日 1977年5月21～22日

第1日

会場 兵庫県立姫路西高等学校白城会館
 開会のことば 西播支部長 金澤 龍先生
 会長あいさつ 会長 室井 綽先生
 来賓祝辞 姫路西高等学校長 坂田康一郎先生
 森・三木・紅谷生物研究奨励金授与

樋口繁一氏 篠山, 有馬の生物研究
 山本義丸氏 ヤガ科 幼虫の研究
 小林拓郎氏 西脇の自然調査研究

議 事 議長 中原・横田先生

I 会務報告(昭和51年度) 当津理事長

- (1) 理事会 51. 4. 17 神戸市立多聞台小学校
- (2) 第30回記念総会 51. 5. 22～23 明石市立中央公民館(兵庫生物7-3 157頁に報告)
- (3) 記念研修旅行 51. 7. 29～8. 4 台湾(兵庫生物7-3 159頁に報告)
- (4) 兵庫県の天然記念物, 編集会議 51. 8. 28 県立夢野台高校
- (5) " " 10. 2 神戸新聞出版センター
- (6) 現代生物学ゼミナール 第88～90回(兵庫生物7-3 167頁に報告)
- (7) 第3回公開講座 51. 10. 23 神戸市立教育研究所(兵庫生物7-3 167頁に報告)
- (8) 新・兵庫の自然 発刊 51. 12. 1
- (9) 兵庫生物7-3 刊行 52. 2. 10
- (10) 高校生物Iハンドブック 発刊 52. 2. 20
- (11) 常任理事会 52. 3. 5 県立夢野台高校
- (12) 理事会 52. 4. 23 県立姫路西高校白城会館
- (13) 監査 52. 5. 14 県立明石高校
- (14) その他 1. 県科学賞申請 2. 会員名簿原簿カード整備 3. 渉外活動

II 会計決算報告 平畑政幸先生

裏表紙に明細書と監査報告を記録

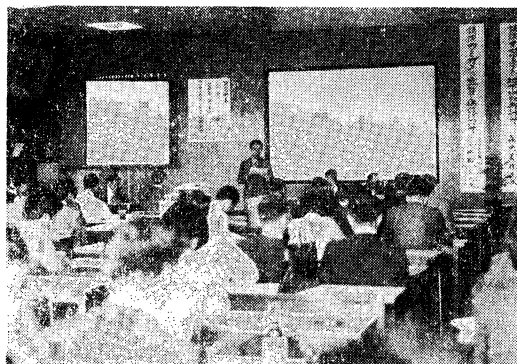
III 役員改選

新副会長 岩崎幸敏先生
 正尾二郎先生

IV 昭和52年度企画

- (1) 夏期研修会
 日程 1977. 8. 9(火)～11(木)(2泊3日)
 場所 佐用郡南光町船越山 るり寺
 指導者 京都大学 村田 源先生
- (2) その他

- ア 「兵庫生物」刊行について(原稿締切8月末)
- イ 現代生物学ゼミナール
 90回を終えた: 100回を目標に頑張りたい。
- ウ 「高校生物I ハンドブック」について
- エ 第4回公開講座について
- オ 「兵庫県の天然記念物」写真集について
- カ 会員名簿発行について
- キ 新入会員募集
- ク 「ニューひょうご」への協力
- ケ スリランカ研修旅行
- コ 支部行事, トピックスの情報を本部へ
- サ 市民大学案内
- (3) 次期理事会兼兵庫県の天然記念物編集会議予告(52. 8. 29 県立加古川東高校)
- (4) 第32回総会開催候補地 西脇市



第31回 総会

講演

1. 『オセアニアの地下水動物について』
 姫路市立姫路高等学校教頭 森本義信先生
 ○オセアニアにおける地下水動物の研究史について
 ○甲殻類の分類について
 軟甲亜綱の原エビ類を中心に説明
 ○森本先生の調査
 2回の調査で, 洞穴27カ所, 河原87カ所を調査採集
 ○オーストラリア・ニュージーランドにおける原エビ類の分布と形態的考察
 ○地下水動物の採集法, 標本作成について
 ○洞穴内での採集について
 ○その他オーストラリア・ニュージーランドの珍しい動物のスライド

2. 『ウミガメの生態と保護について』

姫路市立水族館長 内田至先生

○日本民族とウミガメの接点について

日本ではウミガメを食べたり殺したりしないで、神の使い、大漁の前兆として大切に扱われている。ウミガメとの接触時間が長い割に、ウミガメについての知識は少ない。

○ウミガメの進化学的な位置づけ

○世界のウミガメの種類と、その特徴について
(アカウミガメ、アオウミガメ、タイマイ、ヒメウミガメ、オサガメ)

○ウミガメ産卵場所の世界的分布

○ウミガメの行動、移動を標識をつけて調査

- ・産卵場所としての砂場と、いこい場としての岩場との関係

- ・回帰性、回遊性について

- ・浮いている時間と沈んでいる時間との関係

○世界各地における各種ウミガメの扱われかた

- ・食糧、べっ甲材として

- ・産卵場所の保護

- ・養殖と放流

研究発表

1. きのことについて

県立竜野高等学校 横山了爾先生

2. ヤガ科幼虫の分類と系統

大阪教育大学附属高等学校 山本義丸先生

3. 西脇の自然保護活動について

県立西脇高等学校 小林拓郎先生

閉会のことば 理事長 当津 隆先生

第2日

二日目の自然観察指導研修会は書写山で行われた。朝からポツポツ小雨のばらつくうとうしい天気であった。にもかかわらず、午前10時の集合時刻には40名近い参加者を得た。ロープウェイで山上へ向かう。ロープウェイの窓から、コナラ、クヌギなどの新緑の美しい木の上を飛んでいるキアゲハが見られた。

山上駅近くの広場で、書写山全般の植生について、杉田・橋本両先生からうかがう。書写山頂一帯は西国二十七番の札所である円教寺の境内で、シイ、モミ、ツガの大木が繁る自然植生がみられ、スギ、ヒノキの大木も見られる。その周辺はアカマツを主とする二次林である。また書写山はコヤスノキ、ナギザサなど植物分布の面か



書写山での自然観察

らも貴重な場所である。この書写山を東西に山陽自然歩道が通る。また山頂一帯を中心に自然探勝路が設けられ、要所要所に解説板が立てられて、生態の勉強が自然にできるように工夫されている。

概略説明後、仁王門を経て摩尼殿へ向かう。仁王門近くには、クマザサの一種であるナギザサの群生が見られる。岡山県的那岐山と書写山に分布しているこのササについて室井先生から説明していただく。さらにクマザサのクマについて、牧野説を否定、室井説をうかがう。クマは供米の意とのことである。

摩尼殿からはいよいよ雨が本降りである。自然探勝路を白山権現へ向かう。付近はモミ、ツガの大木がうっそうと繁り、うす暗い林床にはギンリョウソウが満開である。分布上珍しいクロソヨゴが見られ、また、モミの樹上にカヤランが着生し、花をつけている。白山権現前に着いた頃、ちょうど昼食時になる。雨やどりをするにも絶好の場所である。

昼食後、稲田先生から書写山のシダ研究史やシダの分類についての話。橋本先生から書写山における植物分布の話。岩村先生から昆虫類、特に蝶についての話。天候が悪く昆虫類が少なかったのは残念だったが、いろいろと楽しい話がうかがえた。また横田先生からタカノツメの日本刀。その他、風呂敷の結び方まで、隠された特技を多くの方々からご披露していただき、参加者一同幅広い勉強ができた。

ここから奥の院まで進み、山陽自然歩道をロープウェイ山上駅まで引き返し、解散する。

あいにくの空模様にもかかわらず参加者が約40名もあり盛会であった。(家永善文)